

はじめに

本書は、非漢字系の学習者に漢字を少しでも効率的に、そして体系的に教えようという試みとして作られたものである。筑波大学の留学生教育センターでは、1986年4月から「漢字学習研究グループ」を作り、パーソナル・コンピュータを利用した漢字学習プログラムの開発、実践、研究などを進めながら、漢字の何が難しいのか、どうすれば効率的に漢字の学習ができるのか、などを模索してきた。そのグループのメンバーが1987年秋に作成した『基本漢字の練習Ⅰ・Ⅱ』の試用版は、当センターの日本語コースで1年間使用してきたが、その使用結果を検討し、改訂を加えたものが本書である。

当センターの初級集中日本語コース（約500時間）は、関東・甲信越の国立大学に配置される文部省の研究留学生を対象に行われている。学生のほとんどは、非漢字系であり、配置先の大学での研究活動に必要な日本語力を養成するというコースの目的を達成するためには、効率的な漢字教育が不可欠である。また、漢字を学習することによって、日本語そのものの運用能力が高まる、あるいは日本語的な認識方法ができるようになる、という利点もある。例えば、漢字の拾い読みによる速読であるとか、単漢字の意味から未習の複合語の意味を類推することなど、特に、中級・上級へと進む意志のある学習者にとって、漢字学習の効用は大きい。

しかし、これまでの日本語教育では、漢字の学習は個々の学習者の努力に委ねられるのが普通で、漢字の重要性、その習得の難しさにもかかわらず、漢字の教授法や教材の研究などが十分になされてきたとはいえない。語彙とともに一つ一つ辛抱強く書き取りをして暗記していくしかない、という旧態依然としたやり方では、途中で挫折してしまう学習者も多いはずである。

本書を作るに当たっては、まず漢字の難しさを次のように分析してみた。

- (1) 字形の複雑さ
- (2) 数の多さ
- (3) 表意性・表語性（アルファベットなどの表音文字とは違うという点）
- (4) 日本語の表記システムの複合性（ひらがな・かたかなとの併用）
- (5) 多読性・多義性などの特性

以上のような難しさを短期間に克服させるためには、ある程度理論的な説明も必要であろうし、また、「基本漢字」というような最小限の数の漢字を選んで、学習者にとりあえざるのゴールというものを設定してやることも必要なのではないだろうか。単に主教材である

文法や会話の教科書に出てくる言葉をやさしいものから順に漢字で教えるというのではなく、漢字の成立を体系的に教えるとか、読解につなげるための語彙体系と結びつけて教えるとか、将来の漢字学習・日本語学習を効率的にするような基本単位としての漢字を教える姿勢がなければならないと思われる。また、日常よく見る漢字も積極的に取り上げて、漢字学習の動機を高めることも大切である。せっかく漢字を苦勞して覚えても、日常生活に必要な情報がちっとも得られるようにならないという苛立ちは、学習者を出口の見えないトンネルに追い込むようなものだからである。

本書の目的は、基本漢字500字を使って、学習者に

1. 漢字に関する知識（字源・表意性・音訓のルール・書き方・部首など）を体系的に教える
2. 漢字の運用能力（文脈からの意味の推測・複合漢語の意味構造の分析・漢字語の意味から文の意味を理解することなどを含む総合的な力）をつける
3. 覚えた漢字をいつでも必要に応じて記憶の中から取り出して活用できるような覚え方、思い出し方、整理法などを工夫させる

ということである。もちろん、学習させる500字に関しては、読み書きができるようにしなければならないことはいうまでもない。

基本漢字500字の選定に当たっては、上記の目的を達成するための効率を第一義に考えて、以下のような手順で決定した。

- ①漢字の成立を教えるための漢字（象形文字・指事文字・会意文字など）を採用する。
- ②漢字力を読解につなげるために、主語・述語となる基本的な名詞、動詞、形容詞に使われる漢字を選ぶ。
- ③部首の概念を教えるために、基本的な部首として機能する漢字を選び、また各部首を持つ漢字がある程度数集まるように調整する。
- ④使用頻度や造語性が高い漢字を採用する。（学習研究社の『新しい漢字用法辞典』、国立国語研究所の『現代新聞の漢字』、および『現代雑誌九十種の用語用字』を参照した。）
- ⑤人名・地名の漢字や日常よく目にする表示の漢字については、500字の枠外でも紹介する。

このようなわけで、500字の中には、本当はその漢字自体が大切なのではなく、その漢字が他の漢字の要素となっているので、その漢字の書き方を覚えることで、他の多くの漢字が覚えやすくなるというようなものも含まれている。また、字源や部首を説明する際は、

外国人にわかりやすいこと、外国人の記憶を助けるようなものであることが重要であると考えたので、本当の字源や部首とは違った説明をあえてしてあるところもあることをお断りしておく。

いずれにしても、学習効率というのは、実際に教材を使ってみた結果を重ねていかなければ結論は出せないものであるから、この500字の内容についても、さらに使いながら修正していくべきだと考えている。今回は準備期間の関係から、改訂は最小限にとどめざるをえなかった。今後できるだけ多くの方々に使っていただき、ご意見、ご批評をいただければ幸いである。

本書の編集方針、500字の選定、学習内容の配列などは、漢字学習研究グループのメンバー4人が定例ミーティングで話し合い、検討し、決めてきたものであるが、当センターで教えている数多くの日本語担当教師からも、実際に授業で使用してみた上でのさまざまな意見・批評・助言などが出された。その先生方の体験、意見なども本書には大いに反映されているといえる。また、筑波大学心理学系の海保博之助教授には、漢字学習のメカニズムや基本漢字の考え方などに関して、折りにふれ示唆に富んだご助言をいただいた。これらの方々に心から感謝申し上げたい。各課の漢字の書き方のところの手書き文字については、筑波大学大学院芸術研究科の平野和彦氏にお願いした。英語訳に関しては、試用版を作成する際に、筑波大学の比較文化学類に在籍していたオーストラリアの日本語・日本文化研修留学生、グレゴリー・スコット氏が快く校正を引き受けてくれた。また、改訂版を出すにあたっては、筑波大学の哲学思想研究科のイギリス人研究生、デイヴィッド・ベル氏に目を通してもらい、英語部分の統一を図った。それから、試用版から第2版までこの本を使って漢字を勉強した数多くの留学生たちから得た数々の貴重なコメントも忘れることはできない。しかし、本書の内容に関する責任は、すべて漢字学習研究グループのメンバーである我々にあるので、大方のご教示をお願いしたいと思う。

なお、本書の各課の学習内容の担当者は、以下の通りである。

加納千恵子…… 1、2、3、4、5、6、7、25、26、27、36、44、45

清水 百合…… 11、12、13、14、28、29、30、33、41、42、43

竹中 弘子…… 8、9、16、17、19、20、21、24、34、35、37、38

石井恵理子…… 10、15、18、22、23、31、32、39、40

また、全体を通して、漢字の成立ち・読み物については加納、部首・書き方については清水、形容詞・動詞および語構成については竹中、意味や場面による実用的グルーピングに

については石井、というように分担して調整を行った。

最後に、本書を作成、試用する機会を与えてくださった筑波大学文芸言語学系の大坪一夫教授（留学生教育センター長）と社会工学系の細野昭雄助教授（前センター長）に深く感謝申し上げたい。本書が出版されるころには、4人のメンバーのうちの2人は、専任職を得て事実上センターを離れていると思われるが、本書の作成にあたり、数々の便宜を計ってくださったセンターのスタッフの方々に心から感謝したいと思う。

1990年7月

筑波大学留学生教育センター
漢字学習研究グループ

加納千恵子
清水 百合
竹中 弘子
石井恵理子

なお、2004年の改訂にあたり、『**Basic Kanji Book**』 vol. 1と2の学習を終えて、『**Intermediate Kanji Book**』に進んだ学習者が参照する際の便宜を考え、巻末に「漢字番号順音訓索引」をつけた。本書は初級学習者を対象としているため、初級で扱わないような語の読みは載せていないが、巻末の新しい索引には、常用漢字表に載っている読みをすべて示してある。今後の学習に役立てていただければと思う。

2004年1月

著者一同

本書の使い方

本書の内容は目次にある通りだが、各課の構成は次のようになっている。

各ユニット	内 容	所要時間
ユニット1	漢字の話（漢字の成立ち・部首・用法など その課の学習漢字に関する説明）	10～20分 （または予習）
ユニット2	基本漢字（各課10字～12字） 2-1. 漢字の書き方 2-2. 読み練習 2-3. 書き練習	20分→予習 5～10分 15分→宿題
ユニット3	読み物(11課以降)	20分
知っていますか できますか？	役に立つ漢字情報やゲームなど	10～15分

計60分

本書は各課を約60分の授業で使うようにデザインされているが、ここに示した時間配分を目安に、各教育機関、各学習者の実情に応じて、適宜工夫してほしい。

ユニット1 ユニット1は、漢字の体系的学習を助けるための基本的学習項目と思われるものを「漢字の話」として1課分ずつの長さ（1～2ページ程度）にまとめたものである。漢字の字源、成立ち、部首など、いわゆる漢字というものを紹介するための説明のほかに、形容詞・動詞の送りがなのルールであるとか、動詞の用法による分類（移動動詞・スル動詞・変化動詞など）であるとか、言葉の意味による分類（位置・家族の名称・専門分野・季節・経済・地理など）や場面による分類（旅行・結婚・試験・生活など）、漢字の接辞的用法や語構成の説明など、さまざまなものが含まれている。これは、このような知識や整理法が学習者の漢字運用力の向上に有効であると考えからである。説明は、英語（後半は、やさしい日本語）やイラストになっているので、学習者に予習として読んでこさせることができる。教師は、クラスの始めの部分でその内容について質問を受けたり、学習者と話し合ったり、簡単なクイズがついている課ではそれを使ったりして、学習者がその課で学ぼうとしていることを理解しているかどうか確認する。時間にして、10分～20分程度（学習者が予習で十分理解できていれば、軽くふれる程度でもよい）であろうが、ここで学んだことが、後に学習者には、その課のメインテーマとして記憶に残り、その課の漢字を思い出す時の助けとなるはずなので、教師はできるだけ面白く授業をすすめるよう努力してほしい。

ユニット 2

ユニット2は、3つの部分からなっている。2-1の漢字の書き方、2-2の読み練習、2-3の書き練習である。2-1の部分には、その漢字の手書きの字体を大きく示し、その字の意味、主な音訓の読み、画数が載せてある。訓読みはひらがなで、送りなががある場合は間に「-」を入れた。音読みはカタカナで書いてある。あまり使われない読みは()に入れ、初級では勉強しない読みは載せていない。その下の欄には、漢字の書き順を1画ずつ示し、また、その漢字を使った基本的な熟語の例を4語程度選んで、その読みと意味を載せた。原則として、左側に訓読み語を縦に並べ、右側に音読みを語を置くが、熟語の数によってそうならない場合もある。熟語の読みは下のよう漢字1字分ごとに「・」で区切って()の中に示す。「*」印は特殊な読み方をする熟語である。

通し番号

漢字	いみ	くんよみ	オンヨミ	(かくすう)
大	big, large great	おお-きい	ダイ タイ	(3)
一ナ大				
大(おお)きい=大きな big 大学(だい・がく) a university *大人(おとな) an adult 大切(たい・せつ)な important				

2-2の読み練習と2-3の書き練習の部分は、それぞれ、ⅠとⅡに分かれているが、Ⅰは基礎的なやさしい練習で、Ⅱは応用練習というべきものである。読み練習に関しては、Ⅰが基本的な単語の読み、Ⅱが文の読み、というようになっている。書き練習のⅡには、まだ習っていない漢字を使った言葉も紹介されているので、難しいという印象があるかもしれないが、このセクションの主眼は、漢字をただ機械的に繰り返し書かせるのではなく、いろいろな言葉の中に使われているその字の意味を類推させながら書かせることであって、そこに紹介されている言葉を全て覚えさせることではない。このことは学習者にもよく理解させる必要がある。Ⅰのセクションには、各漢字を使った本当に基本的な語しか載せていないので、後になると、Ⅱのセクションが語彙参照用のページともなりえるのである。

さて、1課から10課までは、クラスで丁寧に漢字の書き方を指導してほしいので、2-

1に20分程度、2-2と2-3のⅠ.の部分に合わせて20分程度をかけ、Ⅱ.の部分は宿題として翌日チェックする。11課以降は、2-1と2-2、2-3のⅠ.の部分は予習させてきて、朝提出させたものをクラスの前にチェックして返すようにする。クラスでは、間違ったところを指摘するにとどめ、2-2のⅡ（文の読み練習）やユニット3の読み物に重点を置くようにしていく。書き練習のⅡ.（改訂版では、21課以降にⅢ.として応用練習もつけてある）は宿題にしてもよいし、学習が遅い者には、負担を軽くするために飛ばすこともできるだろう。漢字を書くスピードは個人差が大きいし、またその必要度もまちまちであることが多いからである。

漢字のクラスを担当する教師は、その課の漢字カードや単語カードを準備していく必要がある。フラッシュ・カードとして、手際よく読み練習をさせるために使うばかりでなく、カードの漢字を組み合わせる言葉を作る練習をしたり、部首ごとにグループ分けをする練習をしたり、時間があれば、単語カードで口頭作文の練習をするなどいろいろ工夫できる。なお、練習や宿題で漢字を書かせる時には、できれば本書に直接書き込ませないで、漢字練習用のノート（小学生用の国語ノートでもよいが、ファイル・ノートやルーズリーフ・ノートが提出させる際に便利）を使わせることが望ましい。そうすれば、学生は本書を見ながら何回も繰り返し練習できるからである。

ユニット 3 11課以降にはユニット3として、読み物をつけた。はじめのうちは、語単位の読みから文単位の読みへ、さらに既習漢字を使ったやさしいストーリーの展開の読みへと、徐々につなげていくことを意図したものが主だが、後半は、できるだけタスク型の読み物を増やすように努めた。1語1語を追って全部を完全に理解しようとするのではなく、与えられたタスクを解決するのに必要な情報だけを拾って読む、あるいは全体の意味を大きくつかみながら速く読む、など本当の意味での読みの作業に近づくことにより、読解力を養成することを目指したものである。だいたい15分~20分で読み、設問をこなせることを目安に作ってある。まだ試行段階ではあるが、学生が少しでも読む楽しみを味わってくれればと願って作ったつもりである。

知っていますか、できますか？ このセクションは、いわば番外編のようなものなので、毎課必ずやるという必要はなく、時間に余裕のある時に使えばよい。復習の日などに回すこともできるし、これを題材に会話のクラスなどに発展させる、などいろいろな使い方ができると思う。興味があれば、学生が自分で読んでいくこともできるだろう。5課ごとには、復習・整理のページが入れているので、知識の整理に活用してほしい。

宿題として提出させてもよい。

さて、以上はあくまでも当センターでの75分授業(うち60分を本教材に、のこり15分を主教材の漢字の読み練習に使っている)を想定して作った教案であり、初級コースでは、以下のように1日1課のペースで授業が進められている。

- 1 コマ目 (75分) : C A Iによる文型・文法チェックと漢字の読み練習
(予習の確認および質問受付の時間)
- 2 コマ目 (75分) : 口頭ドリル
- 3 コマ目 (75分) : 会話練習
- 4 コマ目 (75分) : 漢字練習・読解練習

4コマ目の漢字練習・読み練習の時間は、75分全部を本書に使っているのではなく、15分程度を会話教科書に出てくる漢字語彙の読み練習に使い、残りの60分程度を本書を使った体系的な漢字練習および読解指導に当てている。このように、他の主教材との併用も可能であるから、実際のクラスの実情に合わせていろいろな使い方を工夫していただきたいと思う。(＊1990年以降、当センターで使用する教科書も変わったため、上記のスケジュールも変更されたことをお断わりしておく。)

また、本書で選定した基本漢字500字は、日本情報産業株式会社のC A Iソフト、“Let’s learn Nihongo”シリーズの『漢字の基礎』および『漢字書き練習辞典』(1988)とも共通しているので、併せて使用することができる。

Preface

In the field of Japanese language education, memorizing Kanji has largely been entrusted to the students' individual efforts. It goes without saying that a good command of Kanji is necessary to read and write Japanese, and it takes time and persistence to reach the level where students can read and write Kanji fluently. Until now, due to inadequacies in teaching materials, many students have understandably been discouraged by a slow and inefficient learning process. These two volumes have been designed with this in mind and aim to teach Kanji both systematically and effectively.

In these texts, Kanji are examined according to the following five features.

- 1) Kanji with complicated shapes
- 2) Kanji comprised of several components
- 3) independent characters which both express a meaning by themselves and play an important role in forming other words
- 4) the combination of Kanji and Hiragana or Katakana in written language
- 5) characters with several different readings and meanings.

To deal with the areas of difficulty outlined above, it is necessary to give systematic explanations of Kanji as they are presented and to set an attainable goal by selecting a minimum number of basic Kanji for students to memorize.

Instead of memorizing Kanji merely as they show up, these books introduce their origin systematically and show how these characters are used in combination with other Kanji to form words often seen in daily life.

The expectation that students will be able to learn to read and write the basic 500 Kanji by the end of this course is reflected in the following aims:

- 1) to give a broad explanation of what Kanji are comprised of (i.e. origin, meanings of independent characters, 'ON-KUN readings, calligraphy, radicals, etc.);
- 2) to help students achieve competence in reading Kanji (including ability to infer the meaning of a Kanji from its construction, analyzing Kanji compounds to arrive at their meanings, etc.);
- 3) to teach effective ways of memorizing Kanji so that students can make not only perceptive but also productive use of their knowledge.

The 500 basic characters for beginners have been chosen primarily on the basis of how effectively they can achieve the aims described above. The follow-

ing five points have also been important in the selection process.

- 1) Kanji that clearly represent one concept being introduced in the class have been selected (e.g. pictographs, ideographs and logograms)
- 2) To achieve competence in reading, verb-Kanji, adjective-Kanji and nominal Kanji which are frequently found in texts and used in daily life have been chosen.
- 3) In order to teach the concept of radicals, to some extent, each Kanji with a radical has been grouped with others of the same type.
- 4) Frequently-used Kanji and those characters which are highly useful in forming new words are included. (cf. *A New Dictionary of Kanji Usage* by Gakken, *Kanji Used in Recent Newspapers* and *Words and Kanji Used in 90 Recent Magazines* by the National Institute of Japanese Language)
- 5) Personal and place names, and Kanji that are often confronted in everyday-life are introduced in addition to the basic 500 characters.

We must note here that these 500 characters include some Kanji which themselves are not so frequently used but are helpful, because they work as elements of many other Kanji. We also must mention that there are some explanations given in this material which are in fact differ from the actual derivation of a certain Kanji or radical. We have taken this liberty because we feel that these explanations will be more easily understood by students and more effective as aids in memorizing Kanji.

How to use these books

The structure of each lesson is as follows:

Unit 1	About Kanji
Unit 2	Basic Kanji (10~12 characters in each lesson) 2-1 Writing Kanji 2-2 Reading Exercises 2-3 Writing Exercises
Unit 3	Reading Material (From Lesson 11)
Kanji in Daily Life	Do you know these words? Can you use them?

Unit 1

“About Kanji” introduces you to the explanations (derivations, structures, radicals, etc.), the classifications (parts of speech, meanings, situations) and the structures (compounds, affixes) of Kanji. Before each lesson you can pre-read from this section and have some idea about the Kanji you are about to study in the classroom. It is even better if you read these again after covering the characters in class.

Unit 2

Unit 2 consists of three parts: Writing Kanji, Reading Exercises and Writing Exercises.

In “Writing Kanji” each column introduces the following information about a character. (See example next page.)

entry number	漢字	meaning いみ	pronunciation 'KUN' reading in Hiragana 'ON' reading in Katakana		stroke count (かくすう)
39	大	big, large great	くんよみ おお-きい	オンヨミ ダイ タイ	(3)
	一 ナ 大				
	大(おお)きい=大きな big		大学(だい・がく) a university		
	大切(たい・せつ)な important		*大人(おとな) an adult		

entry character
stroke order
usage examples

Inflectional words are given in their dictionary forms. However, na-adjectives are given in their noun modifying forms as Adj-な. '()' shows an uncommon reading. '-' connects the stems and their inflectional endings.

In the usage example box, respective readings are enclosed in parentheses immediately after Kanji. '*' marks a special way of reading. '.' indicates the Kanji boundaries.

Firstly memorize the meanings, 'ON-KUN' readings and usage examples. It may help you to copy the stroke order several times as you memorize. When you are ready to read those Kanji, you can move on to "Reading Exercises". Exercise I contains essential readings which you must be able to read. In Exercise II, you can practice reading Kanji in sentences. It is advisable to write the readings down in a notebook and ask your teacher to check them. This will stimulate not only your audio memory but also your visual memory.

After “Reading Exercises” you can practice writing in “Writing Exercises”. In Exercise I, only basic vocabulary which you can write using the Kanji you have studied is listed. Try to associate the meaning and the reading with each character as you write it.

In Exercise II, you will come across characters you have not yet studied in Exercise I. Exercise II has been deliberately organized in this way to accustom you to the structure of Kanji compounds. Here you may need your teacher’s help to check that you are writing the Kanji correctly.

Unit 3

“Reading Material” starts from Lesson 11. The aim of this is to get you to read Kanji you learned in the passages. First you will read easy paragraphs containing only learned characters. Practice reading several times until you can read correctly and answer the questions. Gradually the reading material will include more variations (tasks and games). In the later lessons, you are expected to grasp the contents faster or to extract only necessary information from complicated contexts.

The readings have been arranged so that by the end of these lessons, you will feel confident reading passages containing many Kanji.

Kanji in Daily Life

It is not necessary to go through these sections with the same speed that other parts of the lessons require. You can take your time to read these. These can also be used as topics for classroom conversation.

After every five lessons there are review sections.

You can also practice these 500 basic Kanji using computers.

NIPPON INFORMATION INDUSTRY CORP. published the *Let’s Learn Nihongo* series in 1988.

The Kanji in these books correspond to the Kanji in *Basic Kanji 500* and *Kanji Dictionary with Writing Practice* of that series.

INTRODUCTION TO THE JAPANESE WRITING SYSTEM

There are three kinds of characters in Japanese; Hiragana, Katakana and Kanji. Hiragana and Katakana are characters which represent sounds. Kanji, however, are characters which express not only sounds but also meanings. Japanese sentences can be written either using Hiragana or Katakana only, but this is not the case with Kanji.

Look at the following sentences.

- 1) わたしはにほんじんです。
- 2) ワタシハニホンジンデス。
- 3) 私は日本人です。

The above three sentences express the same meaning: "I am a Japanese", but sentences 1) and 2) are rarely used. Sentence 1) might be used in children's books and sentence 2) in a telegram. Sentence 3) is the one most commonly written in Japanese.

The Kanji '私' carries not only the sound [WATASHI] but also the meaning "I". '日本人' [NIHONJIN] is the Kanji compound which means "a Japanese". Roughly speaking, the Kanji in Japanese sentences carry certain concepts and Hiragana add the grammatical details to the concepts. It is possible to read Japanese very quickly by picking out the Kanji, thus getting the main concepts of each sentence. Of course, Hiragana are also important in providing understanding of the details of the sentence.

Katakana are used to represent words of foreign origin as in the following.

- 4) 私はアメリカ人です。

Sentence 4) means "I am an American." and the part "America" is written in Katakana. Look at the following examples and notice that the original English